



年間第 26 主日 (ルカ 16:19-31)

その生き方は父なる神の目に留まりますか

年間第 26 主日 C 年の福音朗読の頃は、決まって司祭団のソフトボール大会がっているようです。三年周期の主日の福音朗読を遡っていくと、大会直後は見事に金持ちとラザロの例えが朗読されています。まるでソフトボールの報告会をなささいと言っているかのようです。

その司祭団ソフトボール大会ですが、4 チームが出場しました。長崎からは、優勝を狙った選抜 A チームと、「その他」の神父様で構成する B チーム、上五島下五島合同チーム、佐世保平戸合同チームの 4 チームです。一回戦は第一試合が佐世保平戸チームと五島チーム、第二試合が長崎 A チームと B チームでした。ここで勝ったチーム同士で午後は決勝戦、負けたチーム同士で三位決定戦が組まれます。

第一試合に出た佐世保平戸合同チームは五島チームと対戦し、練習をたくさんしたのであつという間に 5 対 0 とリードしました。「楽勝か？」と思ったのがいけなかったですね。試合は 6 対 6 の引き分けになりました。午後のために優劣を付けなければなりません、何と大会本部が「全員、打順で並んで、相手とジャンケンしてください。勝った人の多いほうが午後の決勝戦に回ります」と言うのです。運悪く、ジャンケンに負けてしまい、私たちは三位決定戦に回りました。

第二試合は長崎同士の対戦でした。まあ、優勝を狙っている A 選抜チームが順当に勝ちました。午後は第三試合が佐世保平戸チームと長崎 B チームで三位決定戦、最後の第四試合が長崎 A 選抜と五島チームで決勝戦となりました。三位決定戦で佐世保平戸チームは奮起し、「ヒットヒット、ホームラン」「ヒット、ホームラン」「満塁、ホームラン」みたいな感じで 21 対 7 で大勝しました。私も流れに乗ってホームランを打ちたかったのですが、2 塁打止まりで、6 打席 3 安打に終わりました。

最終結果はどうなったか？決勝戦に残ったチームが優勝と準優勝です。長崎 A 選抜が 2 戦全勝で優勝は当然ですが、五島チームはジャンケンで勝ち上がって決勝戦負けたので、1 敗 1 引き分けなんですよ。それからすると三位決定戦で大勝した私たちは 1 勝 1 引き分けで三位。これには何となく不満が残りました。

今回私は初めてのポジションを守りました。キャッチャーです。何をするかというと、「締まっていこう」「おー、ワンナウト」「セカンド行くぞ」など声を出すことと、得点に絡む場面でホームを守ることです。声出しは必死にやりましたが、ホームでランナーをアウトにはできませんでした。

キャッチャーを初めてやってみて、困ったことがありました。メガネをかけてキャッチャーマスクをかぶるのは相当難しかったです。帽子までも邪魔になって、マスクがうまくかぶれません。そのうち帽子が邪魔になって、帽子を脱いでマスクをかぶりました。すると、大会終了後に何人かの先輩や神学院の院長をしている同級生から言われたのです。

「お前、ちょっと頭見せてみ？あの暑い中、帽子かぶらずにマスクして、てっぺんに十字架の焼き印が付いてないか？」あれは心配して言ったのではなくて、きっと冷やかashiで言っていたのだと思います。

ただ嬉しかったのは、必死に声を出してキャッチャーをしたことが、味方だけでなく相手チームや試合に関わっていない司祭たちの目にも留まっていたということです。正直に言いますと、私は今回どのポジションであっても「うるさい」と思われるくらいに声を出すつもりで乗り込んでいました。長崎市内の信徒の方が応援に来ていて、「あー、中田神父があそこにいるな」と意識させたかったのです。

観戦している人はどんなにか「うるさい」と思ったことでしょう。それでも、大声を出し続けました。私は応援の人を自分の意識から排除するために、大声を出していたのかも知れません。その甲斐あってか、最終打席はいちばん試合に集中できて、2塁打を打つことができました。

「この回押さえたいこう！」私の叫び声はチームメイトからも浮いていたかも知れません。それくらい大きな声を出して、できることを全力で果たしました。今年、ホームランは打てませんでした、やり切ったと思っています。

ここまで福音朗読にまったく触れなかったのですが、今回一点だけ触れたいと思っています。「その生き方は、父なる神の目に留まりますか？」ということです。金持ちで、毎日贅沢に遊び暮らした人は、父なる神の目に留まる生き方をしないで死にました。

一方、できものだらけのラザロは、金持ちの門前で野垂れ死にしましたが、日々、神の憐れみにすがって、神の憐れみが金持ちを通して与えられたらと願いながら最期を遂げました。いつも、片時も忘れずに神の憐れみをこい求めていたラザロは神の目に留まり、アブラハムの懐に迎えてもらったのです。

人それぞれ、置かれた環境で神の目に留まる生き方をどう実践するか、違いがあるでしょう。金持ちも、毎日贅沢するほど豊かであれば、お返しのできないラザロや同じような境遇の人に惜しみなく施すこともできたはず。一度でも「私の生き方は、父なる神の目に留まる生き方だろうか」と考えたなら、事態は違っていたでしょう。

今回私はキャッチャーという初めてのポジションを言われて、応援の観客も、相手チームの雑音も、バッターボックスの打者も、すべて追い出すくらいに声を張り上げました。それでやっと、自分の務めを果たせたのです。人の目に留まるためではなくて、人の目も雑音もすべて追い出した時に、仕事のできたのでした。

私たちも考えましょう。今の生き方は、父なる神の目に留まる生き方でしょうか。その生き方を、どんな雑音を耳にしても曲げずに貫けるでしょうか。雑音を追い出せるでしょうか。あなたの生き方を見た誰かが見えない神を捉え、「神の目に留まる生き方をこの人は貫いている。私もその生き方を見倣いたい」と考えるでしょうか。どこに置かれても、神の目に留まる生き方を追い求める人でありたいのです。